

R3.9.4第30回日本道德教育学会神奈川支部学習会

ICTの活用で

道徳科授業のアップデートを図る

～GIGAスクール構想下における授業改善の可能性～

梅澤の配布資料(抜粋)です。個人の研究の範囲内で、ご活用ください。



一人一台「Surface Go2」

- ・ 本体
- ・ ペン
- ・ 充電器
- ・ カバー

毎日持ち帰り 充電は自宅で

ドリル学習 (宿題含)



ミライシード
(ドリルパーク)

授業での活用



ミライシード(オクリンク・ムーブノート)
スカイメニュー(発表ノート等)
Micro soft Teams(共同編集)

オンライン授業



Micro soft
Teams

① 「可視化」

…学習内容や状況が**はっきり見える**。



② 「個別化」

…**習熟度やニーズ**に応じて学習できる。

③ 「共有化」

…情報を**やりとりしたり共有したり**できる。



④ 「深化」

…**深い学び**を実現できる。

⑤ 「活性化」

…**不安軽減**したり**意欲**を高めたりできる。





道徳科での活用場面を考える

どこで、どのようにICTを活用するか？

基本的な学習活動(例)	発問や指示(代表的なもの)
<ul style="list-style-type: none">* 課題意識をもつ (テーマを立てる)* 教材を読む	<p>「～についてどう思いますか。」 「～をテーマに学習していきます。」 「教材についてどう思いましたか。」</p>
<ul style="list-style-type: none">* 登場人物や価値について 考え、話し合う	<p>「登場人物は、どのような思いから～したのでしょうか。」 「登場人物の行動について、どう思いますか。」 「登場人物はなぜ～したのだと思いますか。」</p>
<ul style="list-style-type: none">* 学びと自身を関係づけ、 振り返る	<p>「自分は～について、経験したことがありますか。」 「今日の学びを自分の生活と関係付けて振り返りましょう。」</p>
<ul style="list-style-type: none">* 説話を聞く	<p>「先生の経験です。～。」 「本の一部を紹介します。」 「この動画を見てください。」</p>

道徳科での活用場面を考える

	教師のICT活用 	児童の活用 	効果
導入	1 アンケートと分析→	← 回答する	共有・活性・可視化
	2 教材提示(アニメーション)		可視化
	3 教材配信→	教材を読む	可視・個別化
展開	4 個の意見の提示(共有)	← 疑問、感想の入力	共有・活性化
	5 個の意見の提示(交流)	← 考えや立場の入力	共有・可視化
	6 グループの考えの提示(共有)	← グループの考えを入力	共有・深化
	7 回収(と提示)	← 個やグループのメモ	
終末	8 * 回収(と提示)	← 振り返りの記述や入力	個別・深化
	9 * アンケートと分析→	← 回答する	共有・可視化
	10 * 説話(動画、画像)		可視化

子どもの**問題意識**を引き出す



どうして親切は大切なんだろう？

どうすれば勇気ある行動ができるのかな？

こんな時、どうすればいいんだろう？

自分なら、そうはしないけれど・・・？



子どもの**問題意識**を生み出す、引き出すことが、「**自分事**」の**学び**へつながる。

問題意識（問い）の必要性

自我の芽生えと共に自律的に道徳的諸問題をとらえ、「望ましさについてのものの見方・感じ方・考え方」を確立して自らの道徳的思考・判断・行動のもととなる道徳的価値観を形成していきます。その**道徳的価値観形成の際に何をさせておいても不可欠なのが、子ども自身の切実なる「問い」**なのです。

田沼（2020）「問いで紡ぐ小学校道徳科授業づくり」

「問い」について考え、話し合う（課題探求型）という学び方が、道徳科授業の充実にとって重要。





授業 (例)

- 範読
- 問題づくり
- 考える
- 話し合う
- 振り返る



家庭学習

- アンケート
- 事前読み
- 感想

送信!



授業 (例)

- 問題づくり
- 考える
- 話し合う
- (振り返る)



家庭学習

- 振り返る

「道徳科授業」は学校でするもの

▲議論が深まらない、いいところで終わってしまう。

▲振り返りまでいかない。



反転学習的な考え方

「道徳科授業」は学校と家庭でするもの

◎教材研究が充実したものになる。

◎話合いが広がる・深まる。

◎家庭に道徳科を知ってもらおう。語ってもらおう。

道徳科での一人一台タブレット活用は…

メリット



【ICTそのもの】

- ・**時間削減**(本題に時間をかける)
- ・**多くの児童**の表現
- ・**瞬時の共有化**
(意見が広がる→共有、アンケート集計)
- ・**学びのデータ蓄積**(説明、管理、評価)

【道徳の学びとして】

- ・**アンケート集計**(価値理解や人間理解)
- ・**家庭学習**を取り入れ、中心発問以降を深化させる
- ・意見が**広がる**(多面的・多角的思考)
- ・**動きのある板書**
(多面的・多角的思考、変化)
- ・**学びや変容**の見取り、蓄積
(学習状況の評価)

デメリット



【ICTそのもの】

- ・慣れていないと時間がかかる
- ・回線の不具合
- ・忘れ物、充電切れの児童への対応

【道徳の学びとして】

- ・共有化が**本音を出しにくくする懸念**
- ・共同作業からは**個が見えにくい**
- ・打ち込みでは**心が見えにくい**
- ・文字との対話になる懸念
→心の育みとしての道徳科
→やはり、議論は顔を見たい
→入力や記述は、「話合いの準備」

ICT利用の可否をどう考えるか



基本的な授業づくり

ねらいの設定

発問づくり

活動の設定

メリットを
生かせる

タブレット活用

メリットを
生かせない

ノート
ワークシート

【**道徳の学びとして**】の
ICTよさを生かすことを優先に。

「**手書きのよさ**」もしっかりと生かしたい。
勢いよく書ける。すぐ交流できる。**思い**が見える。



評価の基本

児童の**学習状況**や**道徳性に係る成長の様子**を継続的に判断し、**指導に生かすよう努める**必要がある。ただし、**数値などによる評価は行わないもの**とする。（学習指導要領解説）

- ・ **子どもにとっては自らの成長を実感し学習意欲の向上につなげていくもの**であり、
- ・ **教師にとっては、自らの指導の目標や計画、指導方法の改善・充実など授業改善を図るために生きるもの**でなければなりません。赤堀（2019）「道徳の評価で大切なこと」

ICTの技能の差によって、評価に差が出てはいけない。
（ICT技能を系統的に身に付ける／教科のねらい）

学習課題、テーマ

- ① 道徳的価値を理解する (価値理解・人間理解・他者理解)
- ② 価値理解を基に自己を見つめている
- ③ 物事を多面的・多角的に考えている
- ④ 自己の生き方について考えている

- ・多くの授業は④の記述を見取っている。
- ・ICT活用により、③を積極的に見取ることができるようになる。

→ 評価方法の充実



現段階で効果的なICT活用だと感じること

手探りしながら、取り組む中で…

- ①スケール図など**思考ツール**としての活用
- ②アンケート結果などの**瞬時の共有**(スリム化、深化)
- ③**評価**の充実

今後の可能性～さらにやってみたいこと～

☆グループでの活用

- ・共同作業の可能性を探る
- ・意見の書き込みの俯瞰で
道徳的価値の見方を広げる

→話し合い活動の充実へ

☆家庭学習でのさらなる活用

- ・事前読み（教材配信）
- ・事前読みと「問いづくり」
- ・家庭での振り返り

→本時の学習内容の充実へ



ねらいを明確に、
質の高い授業づくりを。

それはICTでないとできない？
活用のよさは？

【参考文献】

- ・田中博之(2021)「GIGAスクール構想対応 実践事例でわかる！
タブレット活用授業」(学陽書房)
- ・田沼茂紀(2020)「問いで紡ぐ小学校道徳科授業づくり」(東洋館出版社)
- ・赤堀博行(2018)「道徳の評価で大切なこと」(東洋館出版社)
- ・バトラー後藤裕子(2021)「デジタルで変わる子どもたちー学習・言語能力の
現在と未来ー」(ちくま新書)
- ・「道徳教育2021年6月号 GIGAスクールに対応した道徳ICT活用術」
(明治図書出版)
- ・「生きる力6」(日本文教出版)／「私たちの道徳(5.6年)」
- ・文部科学省「学習指導要領解説「総則編」／「特別の教科 道徳編」
- ・文部科学省「令和元年度補正予算(GIGAスクール構想の実現)の概要」
- ・15歳のデジタル・テクノロジーの学習への利用
(文部科学省国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査補足資料」)
- ・中教審答申「令和の日本型学校教育」
- ・内閣府ホームページ